

両生類相の概要

本県では平野部を中心とした広大な水田地帯、美濃地方の低地に見られるため池や沼地、東濃地域の丘陵帯に見られる湧水湿地、飛騨地方に見られる高層湿原、県土の80%を超える森林やそこを流れる溪流など、両生類の生息環境も多様であるため、両生類相の多様性は極めて高い。しかし、「昔と比べてカエルが大変少なくなった。」という声を県内各所でよく耳にする。開発や環境の改変、農薬の使用や水田におけるイネの栽培方法の変化などの人為的な圧力に加え、カエルツボカビ病などの感染症による圧力などの原因が考えられる。

県内では、2目7科23種の両生類が確認されている。無尾目(カエル類)においては、国内に生息する代表的な種のほとんどが生息し、有尾目(サンショウウオやイモリの仲間)は8種の生息が確認されている。全国的に絶滅の危機に直面している小型サンショウウオ類は日本では19種類が確認されているが、その3分の1にあたる6種が県内で確認されており、日本では最多クラスの小型サンショウウオ生息県となっている。

また本県は、東日本に分布するクロサンショウウオ、西日本に分布するカスミサンショウウオやコガタブチサンショウウオなどの分布の境界に位置しており、学術的にも重要な地域である。

選定種の状況

今回の改訂の結果、絶滅危惧Ⅰ類2種、絶滅危惧Ⅱ類4種、準絶滅危惧3種、情報不足2種の11種を選定した。新たに選定した種は、ヒダサンショウウオ(準絶滅危惧)とモリアオガエル(情報不足)の2種である。また、ランクアップした種は、ニホンアカガエル(情報不足から準絶滅危惧)1種である。

改訂前と比べて3種の種名が変更している。ハクバサンショウウオは、前回ヤマサンショウウオとして記載されていたが、ハクバサンショウウオと同種とされた。また、コガタブチサンショウウオは前回ブチサンショウウオとして記載されていたが独立した種であるとされた。ナゴヤダルマガエルは、前回ではダルマガエルとして記載されていたが、日本爬虫両生類学会が承認している標準和名に従い、ナゴヤダルマガエルとして記載した。

記載された種のうち、カスミサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ニホンアカガエルは我々人間の生活圏に最も身近な低地から丘陵地に生息する種であ

るため、生息環境の悪化に伴って急激に減少している。

河川の上流域や山地の溪流に生息する種として、コガタブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、オオサンショウウオ、ナガレヒキガエル、ナガレタゴガエルの5種が選定された。これらの種は、河川の改修、溪流周辺の改変、大雨による河川の荒廃などによって生息環境が急激に悪化している。

ハクバサンショウウオとクロサンショウウオは、比較的人間の生活圏から離れた山地に生息しているが、湿原の乾燥化、夏緑樹林帯の減少、道路などの建設、改修による生息環境の悪化や消失などが多くの生息地で起こっている。

モリアオガエルにおいては、山間地の水田における耕作放棄など、他のカエル類やアカハライモリなどと同様に、生息環境の消失が危惧されている。

両生類は水中で産卵し、幼生期を水中で過ごし、やがて変態して陸上で過ごす。乾燥には弱い動物である。両生類の産卵環境も止水、溪流、伏流水など様々で、水質の悪化や水の枯渇など即座に大きな影響を及ぼす。上陸した幼体から成体の生息場所である森林や竹林、水田周辺の草地など、適度に湿度が保たれた陸上環境も両生類の生息には不可欠である。また、両生類は毎年産卵のため成体の生息場所と産卵場所との間を行き来する。そういった場所に道路や側溝などができてしまうと、産卵の大きな妨げとなるばかりでなく、しばしば親個体の死滅を招いてしまう。このように水辺から成体の生息する陸上の環境までの複合的な環境、すなわち『生態系としてのエコトーン(水陸移行帯)』が守られていないと、両生類の生息は困難である。また、多くのカエル類やアカハライモリなどは水田やその周辺を生息場所として利用している。農薬の使用や水田におけるイネの栽培方法の変化なども、両生類の生息に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

今回の改訂では、生息数の減少傾向の大きなものから11種を選定したが、選定されなかったすべての種においても、部分的、地域的に減少の傾向が出始めているといっても過言ではない。

● トノサマガエルとナゴヤダルマガエルの区別方法について



トノサマガエルの背面の黒斑は不定形で連続し、幅の広い正中線をもち、繁殖期には婚姻色で金色になる。ナゴヤダルマガエルは正中線を欠く個体が多く、体色の雌雄差はなく変異に富み、背面の黒色の斑紋は丸く独立する。

トノサマガエル雌 (左) とナゴヤダルマガエル雄 (右)

●県内に生息するアカガエル類の区別方法について



ヤマアカガエル（左）とニホンガエル（右）



左からニホンアカガエル、ヤマアカガエル、アカタゴガエル、ナガレタゴガエルの腹面



ナガレタゴガエル（左）とタゴガエル（右）の水かき

ヤマアカガエルの背側線は目の後ろで緩いV字型に折れるが、ニホンアカガエルは直線的である。ニホンアカガエルは腹面に黒斑がなく、ヤマアカガエルの腹面の黒斑は疎らである。タゴガエルやナガレタゴガエルは喉から腹部にかけて小さな黒斑が密にある。

ナガレタゴガエルはタゴガエルより後肢の水かきが発達していて、指先まで水かきが広がっている。という。

両生類各種のページはこちら

http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11264/sizen/red_data2/amphi.html